

たし算の「百ます計算」は、「和が9までのたし算36題」「和が10のたし算9題」「くり上がるたし算36題」「0のたし算19題」の4種類のたし算にテンポよく解答をしていくことで、子どもたちの脳を活性化させ、基礎計算に習熟することができる教材です。ただし一つのますの解答に10秒も20秒もかかる状態でさせても、あまり成果は期待できません。すすいできる難易度の計算をテンポよくこなしながら、タイムや正解率の伸びに応じて難易度を徐々に上げていくことが重要です。

本教材では「百ます計算が楽しくできる」状態にいたるまでのステップを12段階で構成しています。「きょうのかだい」を使えば、誰でも「百ます計算」をテンポよく楽しく解き進めていける段階まで到達するように工夫しています。ここでは、たし算を例にます計算の各段階での利用法をご紹介します。



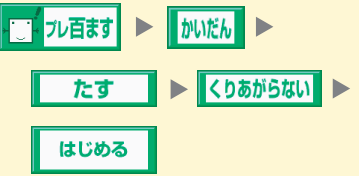
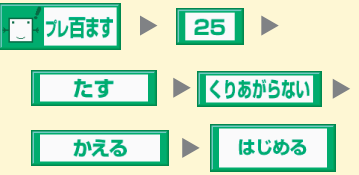
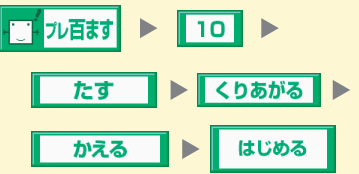
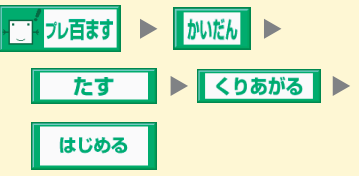
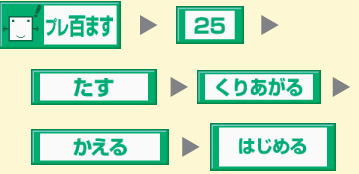
小学館

はじめる前に気をつけていただきたいこと

- ◆ 「百ます計算」を一年生から採用し、成果を挙げている小学校では、以下の内容を6か月から10か月程度かけてじっくりと指導しています。また習熟の速さには個人差がありますので、くれぐれも「無理せず、焦らず、じっくり」取り組んでください。
- ◆ 本ソフトでは教科書に沿い、原則として和が10までのたし算を「くり上がりなし」、和が11以上のたし算を「くり上がりあり」と呼んでいます。ただし「くり上がるたし算」の問題でも、その習熟の重要性から和が10のたし算を出題している場合があります。
- ◆ 「0のたし算」とは0に0～9までの数をたす計算や、0～9までの数に0をたす計算を指しています。
- ◆ 目標タイムは小学校低学年を想定した一例とお考えください。その到達には個人差があります。特に小学校に入ったばかりや幼稚園年長児のお子さまの場合、タイムを意識せず無理せず、短時間で余裕をもってこなせる程度の量を最後までやりきるようにご指導ください。

ステップ	学習の内容	ステップ目標	メニュー	学習のすすめかた
1	五ます計算 くり上がりなし	20秒程度で 全問正解		「かだい」で「たしざんカード④」まで終えたら、「五ますたしざん」にチャレンジしましょう。1～5のいずれかの数をもとに、くり上がりなしのたし算を5回くり返します。スムーズに解答できないときやタイムがなかなか縮まらないときは、「かだい」で「たしざんカード①～④」を復習するとよいでしょう。
2	十ます計算 くり上がりなし	30秒程度で 全問正解		「五ますたしざん」でます計算のリズムに慣れたら、「十ますたしざん」のくり上がりなしに進みます。どんな数がたされる数に来ても、全問正解できるようになるまで続けましょう。0のたし算は「たしざんカード②」などでおさらいができます。また、もんだいのならびを「おなじ」にすると、くり上がりなしの5のたし算が何度も練習できます。20秒程度での全問正解を目指し、くり返しチャレンジしてみましょう（※）。

※ 脳の活性化に有効とされる学習法です。

ステップ	学習の内容	ステップ目標	メニュー	学習のすすめかた
3	かいだん計算 くり上がりなし	2分程度で 全問正解		<p>「十ますたしざん」のくり上がりなしが、どの数でも30秒以内でできるようになったら、「かいだんたしざん」でくり上がらないたし算のまとめをします。1～9までの数のたし算でくり上がらない36題と0のたし算9題の、合わせて45題です。3+7や6+4のような和が10になるたし算に時間がかかるようなら「かだい」の「10になるかず①②」「10をわけてみよう①②」をおさらいするとよいでしょう。</p>
4	二十五ます計算 くり上がりなし	1分程度で 全問正解		<p>問題はすべて「かいだんたしざん」（くり上がりなし）で学習した計算です。もんだいのならびを「おなじ」にすると、0～5までのくり上がらないたし算の、同じ問題を何度も練習できます。40秒程度での全問正解を目指し、くり返しチャレンジしてみましょう（※）。</p> <p>◆ タイムを意識するようになると、数字の書き方もだんだん乱れがちになる傾向にあります。そんなときは「れんしゅう」→「おけいこ」→「すうじをかこう①」で、数字の正しい書き方を復習しましょう。</p>
5	十ます計算 くり上がりあり	30秒程度で 全問正解		<p>「きょうのかだい」で「たしざんカード⑤」を学習し、ある程度くり上がりの計算に慣れてきたら、「十ますけいさん」でくり上がりの練習をしましょう。どんな数がたされる数に來ても全問正解できるようになるまで続けましょう。もんだいのならびを「おなじ」にすると、6のたし算の問題が何度も練習できます。20秒程度での全問正解を目指し、くり返しチャレンジしてみましょう（※）。</p> <p>なお、くり上がりがないかスムーズにできない場合は「かだい」で「10になるかず①②」「10をわけてみよう①②」「たしざんカード⑤」をくり返し練習しましょう。</p>
6	かいだん計算 くり上がりあり	2分程度		<p>「十ますたしざん」のくり上がりを30秒以内でできるようになったら、「かいだんたしざん」でくり上がるたし算のまとめをします。1～9までの数のたし算でくり上がる36題と和が10になるたし算9題の、合わせて45題です。</p>
7	二十五ます計算 くり上がりあり	1分程度		<p>ステップ6のくり上がりのある「かいだんたしざん」の計算が2分程度でこなせるようになったら「二十五ますたしざん」に進みましょう。問題は、すべてステップ6の「かいだんたしざん」で学習した計算です。</p> <p>もんだいのならびを「おなじ」にすると、4～9までの数のくり上がるたし算の同じ問題を何度も練習できます。40秒程度での全問正解を目指し、くり返しチャレンジしてみましょう（※）。</p>

※ 脳の活性化に有効とされる学習法です。

ステップ	学習の内容	ステップ目標	メニュー	学習のすすめかた
8	十ます計算 くり上がりなし・あり両方	20秒程度（たし算に習熟した小学生なら10秒以内）		<p>ここまでで、百ますたし算に出てくるすべての計算パターンを身につけたこととなります。ここからはくり上がりなし・くり上がりありの問題を混ぜた、ます計算を使い、問題数の負荷（ますの数）を少しずつ増やしながら、着実なレベルアップを図っていきましょう。とくに「十ますたしざん」は、脳の活性化に非常に有効な教材です。ステップ目標を目指して毎朝するのもよい方法です。いずれにせよ、じっくり、取り組んでいきましょう。苦手な計算パターンを抜き出して、反復練習することも有効です。</p>
9	二十五ます計算 くり上がりなし・あり両方	45秒程度		<p>「十ますたしざん」は計算量が少ないので、あるレベルに達するとタイムも頭打ちとなります。ステップ8をクリアしたら、「二十五ますたしざん」で練習しましょう。ますの数は、十ます計算の2.5倍ですが、たされる数が5種類になるので、またちがったリズム感となります。くり上がりの計算がスムーズにできないとき、「たしざんカード」で復習をすることも重要です。</p>
10	三十ます計算 くり上がりなし・あり両方	45秒程度		<p>「三十ますたしざん」は「二十五ますたしざん」と大して計算量は変わりませんが、「3種類のたされる数に、0～9の数を次々たしていく」という計算になるのでタイムは伸びやすいかもしれません。もんだいのならびを「おなじ」にすると、3, 7, 9に0～9の数をたす「三十ますたしざん」が練習できます。</p>
11	五十ます計算 くり上がりなし・あり両方	1分半程度		<p>百ます計算の半分量の計算となります。問題量がここまで増えると、かなりしんどい子どももいるでしょう。はじめはタイムなど気にせず、五十のますに答えをうめていく作業に、じっくり取り組んでいくことから始めるとよいでしょう。もんだいのならびを「おなじ」にして、五十問を答え終えるリズム感から慣れていくほうがいい効果がある子どももいるかもしれません。緊張感をもって取り組んでみましょう。</p>
12	百ます計算 くり上がりなし・あり両方	小学校一年生の終わりで3分		<p>いよいよ「百ますたしざん」です。本ソフトでは1種類の「百ますたしざん」の問題を収録しています。これを、毎日、くり返しやってください。大切なことは「毎日同じ問題をする」と「タイムと正解率を記録する」ことです。子どもたちには毎日の自分の伸びを実感することが重要です。ふつう、小学校では2学期の終わり～3学期頃から使うようです。3分を達成したら、そこからは自分との戦いータイムトライアルです。</p>